

## 令和5年度 公正入札調査会議議事概要

開催日及び場所	令和5年 7月21日(金) 13:30～15:30 防衛省庁舎D棟7階会議室		
委員	会長 楠 茂樹 (上智大学法学部国際関係法学科教授) 会長代理 中村 豪 (東京経済大学経済学部教授) 委員 植村 京子 (深山・小金丸法律会計事務所弁護士) (五十音順) 木下 誠也 (日本大学危機管理学部教授) 五艘 隆志 (京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科准教授)		
討議対象期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日		
討議対象件数	2, 238件		
<b>1. 入札結果の事後的・統計的分析結果について</b>			
項目	建設工事、建設技術業務、管理工事、管理技術業務、部隊等工事、部隊等技術業務について		
意見・質問		回答	
○ 特になし。			
報告事項	特になし。		

<b>2. 談合疑義案件の処理状況について</b>			
項目	工事	業務	談合疑義案件報告数
談合情報	0 件	0 件	0 件
点検結果疑義	0 件	0 件	0 件
意見・質問		回答	
		○ 報告案件なし。	
報告事項	特になし。		

<b>3. その他</b>	
項目	(1) 地方防衛局の入札監視委員会における共通意見・提言等の報告 (2) 見積を活用する積算方式(見積活用方式)について (3) 今後の防衛省における建設工事について

意見・質問	回答
<p><b>(1) 地方防衛局の入札監視委員会における共通意見・提言等の報告</b></p> <p>○ 特になし。</p> <p><b>(2) 見積を活用する積算方式（見積活用方式）について</b></p> <p>○ 極端な見積価格を省くなど平均値の取り方もマニュアルの改正において引き続き検討されたい。</p> <p>○ 妥当だと判断した見積価格と予定価格及び調査基準価格の関係が適切になるようマニュアルを見直す際に検討されたい。また、不調不落対策の観点から、見積活用方式は積極的に活用すべきである。</p> <p>○ 見積の妥当性を確認する上で価格差が大きい場合にはその内容や理由を十分に確認する必要があり、その方法を示すことが大事である。</p> <p><b>(3) 今後の防衛省における建設工事について</b></p> <p>○ E C I方式について、設計と工事のフェーズが複数あり、1期は交渉成立したが2期は交渉不成立ということもあるのか。</p> <p>○ 今までとは違うフェーズの建設工事になっているので、価格の適正、手続の透明性をどう確保するのが重要である。</p> <p>○ E C I方式においても、競争性が残るような形で随意契約ができるよう、検討されたい。</p>	<p>○ ご指摘について検討してまいりたい。</p> <p>○ ご指摘について検討してまいりたい。</p> <p>○ 提出された見積については、ヒアリングを通じて内容を確認し、考え方に相違があれば見積りを再提出させる、もしくは妥当性がないと判断するなどの対応を考えている。</p> <p>○ そういうケースもあり得るため、その場合どうするかというのも踏まえながら検討してまいりたい。</p> <p>○ ご指摘について検討してまいりたい。</p> <p>○ ご指摘について検討してまいりたい。</p>
報告事項	特になし。